

アイヌ施策推進地域計画 中間目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	(中間) 目標年度
標茶町	標茶町アイヌ施策推進地域計画	令和5年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%)B/A	備考
アイヌ文化の保存または継承に資する事業 (フェイスブックの年間リーチ人数)	24,000 人	26,475 人	110%	R5 実績
アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業 (体験事業・学習講座参加者数)	55 人	18 人	32%	〃
観光の振興その他の産業振興に資する事業 (博物館ニタイト年間入館者数)	6,000 人	5,575 人	92%	〃

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況
アイヌ文化の保存または継承に資する事業 (フェイスブックの年間リーチ人数)	令和5年度について目標は達成した。アイヌ施策推進地域計画に基づく事業の途中経過や、事業実施について積極的に発信した。Facebookは令和元年度より始めているが、アイヌ施策推進地域計画開始以降、順調に数値が伸びている。
アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業 (体験事業・学習講座参加者数)	令和5年度については、予算都合上、当初計画よりも講座回数を減らした)させたため、講座参加数が減少しているが、令和4年度は目標を達成しており(178%)、当初計画よりやや変化があった事を踏まえ、概ね予定どおり達成している。
観光の振興その他の産業振興に資する事業 (博物館ニタイト年間入館者数)	令和5年度については、アイヌ文化に係る事業を博物館内で実施せず、別会場で行ったことなどにより入館者数の目標に届かなかったが、令和4年度は目標を達成しており(110%)、中間評価としては概ね達成している。

(総括コメント) 各種事業については、令和 5 年度まで概ね予定通りに完了した。また博物館内展示に関わる事業及び、アイヌ文化関連施設などのハード事業を含む予算規模の大きな事業については、令和 4 年度まで全て完了した。

2. (中間) 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

事業の進捗状況	事業実施主体
『標茶町文化財マップ』のデジタル化事業については、既存の『標茶町文化財マップ』を校正し、アイヌ文化に関する内容を大きく取り入れ電子データ化した。町内の小学校で活用したほか、WEB 上に公開することにより町民以外の閲覧も可能とした。	標茶町博物館
事業の効果	
小学校においてはマップを活用し授業等への活用を行ったことにより、小学生によるアイヌ伝統文化への理解を促進したほか、WEB 上で公開したことなどにより、町内外の人々に対する普及啓発にも寄与した。	

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化に関わる体験伝承事業については、博物館やアイヌコタンが所在した塘路地区及び虹別地区、人口の多い標茶本町の教育施設においてアイヌ文化に関わる体験学習や講演会を実施(14回開催、延べ参加者数 184 人)し、町民のアイヌ文化への理解を促進した。	標茶町博物館
事業の効果	
標茶町博物館の入館者増に繋がり、また標茶町内でアイヌ文化に触れる機会を多く生み出した。博物館入館者では、特に本州からの観光客や外国人観光客にもPRすることができた。漫画『ゴールデンカムイ』との連携事業や国立博物館ウポポイとの連携など、他のアイヌ文化関連事業やアイヌ文化施設との連携が生まれた。	

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化伝承普及イベント事業については、博物館内においてムックリ演奏会やアイヌ舞踊の鑑賞会、アイヌ食文化体験などを実施し、アイヌ文化の伝承普及を行った。令和 4 年度および令和 5 年度の計 2 回開催。延べ参加者数は 308 名となっている。	標茶町博物館
事業の効果	
標茶町博物館の入館者増に繋がり、また標茶町内でアイヌ文化に触れる機会を多く生み出した。博物館入館者では、特に本州からの観光客や外国人観光客にもPRすることができた。	

事業の進捗状況	事業実施主体
標茶町博物館ニタイトにおけるアイヌ文化展示資料整備事業については、博物館が所蔵するアイヌ文化に係る映像等の資料についてデジタル化したほか、本庁内のチャシなど重要拠点の映像記録化や、常設展示室の開設パネル多言語化など展示資料の整備等を行った。	標茶町博物館
事業の効果	
標茶町博物館の入館者増に繋がり、また標茶町内でアイヌ文化に触れる機会を多く生み出した。博物館入館者では、特に本州からの観光客や外国人観光客にもPRすることができた。漫画『ゴールデンカムイ』との連携事業や国立博物館ウポポイとの連携など、他のアイヌ文化関連事業やアイヌ文化施設との連携が生まれた。	

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化関連施設整備事業については、糖路アイヌと和人との漁業に関する交流拠点であった旧糖路駅通所を修復し、糖路アイヌに関する文書資料を展示する空間として活用した。	標茶町博物館
事業の効果	
改修し展示を整備した旧糖路駅通所内において、アイヌの内水面漁業等の展示を行うことにより、標茶町のアイヌ文化への理解と共感を深める機会を提供することができた。	

### 3. 今後の方針等

<p>・『標茶町文化財マップ』のデジタル化事業については、町内外の人々へのアイヌ文化の普及啓発に寄与していることから、引き続き小学校での活用を進めるとともにフェイスブック等様々な媒体を効果的に活用して、閲覧を促進する。</p> <p>・アイヌ文化に関わる体験伝承事業については、体験学習等の実施によりアイヌ文化の次世代への継承が着実に進んでいることから、引き続きアイヌ文化の保存継承に係る事業を実施することにより、アイヌ文化への理解を促進するとともに後継者の育成を図る。</p> <p>・アイヌ文化伝承普及イベント事業については、講演会への参加者数等も増加しておりアイヌ文化の素晴らしさの共有が進んでいることから、引き続き各種の事業を企画・実施していく。</p> <p>・標茶町博物館ニタイトにおけるアイヌ文化展示資料整備事業については、博物館内の展示資料の整備が進み、入館者数の増加につながっていることから、引き続き博物館の来場者の増加に向けて資料の整備を進める。</p> <p>・アイヌ文化関連施設整備事業については令和5年度までに完了しており、令和6～7年度に関しては、体験講座やイベント事業などのソフト事業主体となる。幅広い世代への事業展開を進めたいと考えており、令和6年度については、標茶町内の高校生を主な対象とした事業展開を進める。</p>
--